

調べるための本について知ろう～百科事典の使い方を知る～

ねらい：「事典」「図鑑」「科学読み物」など調べる時に役立つ本を知り、特に百科事典の使い方を理解する。

	主な学習活動	指導、支援緑担任、黄緑担任か司書教諭、ピンク学校司書
導入 3	1. 学習の見通しを持つ。 「今日は、詳しく知りたいなと思った時に本で調べる方法を勉強します。そして、教材文を読んだ後にもっと知りたいと思ったことを調べますよ」	ワークシートを配布し、ワークシートに沿って進める。盛りだくさんになるので、①②③はさっとやるといいです。
展開 17	2. 調べる本について知る。 ① 図鑑 ② 科学読み物などの本 ③ 事典・いろいろな物事を見出し語にして、せつめいした本	スライドを使って、調べる本には、図鑑・科学読み物・事典があることを知らせる。 スライドに合わせて、学校図書館にある図鑑、科学読み物の棚を紹介する。
	3. 百科事典の引き方を知る。 ・国語辞典と百科事典の使い方を比較しながら。 →50音順であることは同じ。 →百科事典は12巻全部で1冊。頭文字を見て、何巻にのっているかを見つけられれば、後は国語辞典と同じ。 →より詳しく知りたいときには、百科事典を使う。 ・ワークシート(③)で調べたいことがら何巻にのっているか知るためのクイズをする。 ・ワークシート(④)で百科事典を引く練習をする。	スライドを使って、3年生の4月に学習済みの国語辞典のつかい方と比較しながら説明する。50音順であることから、つめ→はし→見出し語と見つけていく順番は同じであることを、児童の興味のある言葉と一緒に確認する。 スライドに合わせて、実際に実物投影機に映しながら、百科事典で引いてみせる。 ワークシート③を使って、どの巻にどのことがらがあるのか頭文字に着目するクイズをする。(ポプリアディアの場合、2, 3巻にまたがる頭文字に注意)
まとめ 5	4. 百科事典クイズに挑戦する。 ① アンパンマン ② 科学読み物 ③ 図鑑 ④ 事典	ワークシート④を使って、百科事典を引く練習をする。このときには、グループで探させると、時間短縮になる。 個別に児童の支援にあたる。また、答え合わせをする。※事前にクイズをやってみて、答えを準備しておくといい。
	5. まとめ ※時間があれば、感想を聞く。 「調べる本がたくさんあることや、百科事典の使い方はわかりましたか。この後、教材文を読んでもっと知りたいことを調べていきましょう。」	実態に合わせて、1問目は取り組みやすいものを選び、渡すといい。その後は、個別に支援に当たる。その際、司書教諭にも入ってもらえると、個別の支援が充実する。

学校図書館活用授業シート

3年生 国語科 本は友だち

2週間前

百科事典の使い方を知って、使えるようになってほしいな。
担任

百科事典の使い方は図書館で教えられるように、セットがありますよ！
司書教諭
もしくは担任

では、リストをもとに本を集めておきますよ。
学校司書

1週間前

単元では、教材文を読んでもっと調べたいことを調べるときに、百科事典を使います。

百科事典の使い方を教えるためのパワポ資料、ワークシート、クイズ用紙をみんなで一緒に確認する。

教科書で紹介されていた、百科事典、図鑑、科学読み物を準備する。

今、3年生の子どもたちが興味をもっている分野は、

- 1 野球
- 2 料理
- 3 動物
- 4 世界(旅行)

子どもたちの実態に合った資料や問題にしたので、担任の先生にリサーチする。

学級の実態に応じて準備をすると、より意欲的に子どもたちが取り組むことが期待できます。

- ①手順が分かりづらい児童がいそうだなと思ったら…
- 説明は視覚的に、パワーポイントを活用。大事なページは印刷して掲示物にする。
 - 五十音順が判断しづらい児童には、五十音表を準備する。
- ②子どもたちの興味のある事柄を調べるクイズを作る。協働して問題を考え、お互いに解いてみて、3年生の実態として解けるかどうか見極める。
- ③引くスピードには個人差が予想されるため、クイズの様式を2種類準備。

①は1問形式。②は2問形式だが、穴埋め問題として答えを導きやすくしているもの③は自分の力で読み取って書くようになっている。④は自分でクイズを作れるようになっている。このように、種類分けをして問題を作ると、個人差にも対応できる。

①

しるべいのことば	アンパンマン	動物
しるべいのことば	アンパンマン	動物

②

しるべいのことば	アンパンマン	動物
しるべいのことば	アンパンマン	動物

③

しるべいのことば	アンパンマン	動物
しるべいのことば	アンパンマン	動物

④

しるべいのことば	アンパンマン	動物
しるべいのことば	アンパンマン	動物

単元スタートまでに確認

できたワークシートを確認。子どもたちが取り組みそうな内容か、最終チェックを行う。

ワークシート、パワーポイントを確認する。

人数が多い学級の時には、他校から百科事典を借りることも検討する。

さあ、子どもたちが調べるスキルを身につけられるよう授業をやってみよう！

単元計画

単元の目標

- ・目的に応じ、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。
- ・いろいろな本や文章を読み、調べる対象についての語彙を増やすことができる。

	第1次		第2次	第3次	事後
	1	2(授業案記載)	3~4	5	
評価規準	【関】 本を使って調べる方法に興味を持ち、進んで取り組もうとしている。 【読】 学校図書館の利用方法を知り、本を探しやすくするための工夫を捉えている。 【読】 目次や索引を利用して、知りたいことを探す方法を理解している。		【読】 興味を持って文章を読み、内容の大体を捉えている。 【読】 文章から、自分の調べたいことを見つけている。	【読】 自分の目的に合った本を選んで読み、必要な事柄を見つけて、まとめている。 【読】 学習をふりかえり、学んだことを確認している。	ここで身につけた百科事典等で調べる力は、今後各教科や総合的な学習の時間など、すべての学習に活かされる。
学習活動	①学校図書館で、題名だけを手がかりにして本を探す活動を行う。 ②学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ③図書館で本を探しやすくするためにされている工夫を知る。	①事典や図鑑、科学読み物などの使い方や読み方を知る。 ②百科事典の使い方を知り、自分で引けるように、実際に練習する。	①教材文「里山は、未来の風景」を読む。 ②読んで、もっと知りたいと思ったことをノートに書きだす。	①もっと知りたいと思ったことを、学校図書館で調べる。 ②調べて分かったことをノートに書く。 ③単元の学習をふりかえる。	
担任の動き	・本を探すことを通して、図書館への関心を高める。 ・「活動の流れ」を確認し、見通しを持たせる。 ・本を探しやすくするための工夫を見つけさせる。	・目次や索引の便利さを伝え、自分で活用できるようにさせる。 ・百科事典の使い方を実際に試しながら、意欲的に学習できるように、児童の実態に合った問題を準備する。	・作者や内容から発想を広げて調べる内容を挙げさせる。 ↓ ・学校司書に、児童が調べたいと思ったことを知らせる。その際には、調べたいことが漠然としたものよりも、具体的なものになっている方がいい。「○○の△△が知りたい」	・第1次で使った方法を使って、自分の目的に合った本を選ばせる。 ・調べた事柄を記録させる活動を通して、本で調べる方法の習得を図る。 ・他教科や生活の中で活用できる具体的な場面を伝え、意欲を高める。	★今回は、百科事典クイズを同じ様式を使って、クイズを作成する活動を行い、学習のまとめとした ・いろいろな学習において調べるとき、ことがらの概要を知るためには、百科事典が使えることを伝え、繰り返し使っていく
司書教諭の動き		・百科事典のスキル指導に入る。 ※ワークシート、パワーポイントのスライド、掲示物の準備ありなので、担任がやることも可能。 ・百科事典の引き方に沿って、個別の支援にあたる。	次時で、児童が本を使って、調べることができるように、担任・学校司書をつなぐ。困っている様子があれば、アドバイスする。		・学習のふりかえり。担任、学校司書の感想を聞き、次に活かす。
学校司書の動き	・①学校図書館で題名だけを手がかりにして本を探す活動の支援。これまで学習した「分類キーワード表を見る」ことができているか、それぞれの実態をつかむ。	・事典、図鑑、科学読み物の棚の位置を知らせたり、本を紹介したりできるように、準備する。 ・実物投影機を準備し、説明に合わせて、引き方を見せる。 ・百科事典の引き方に沿って、個別に支援にあたる。答え合わせ。	・授業後、児童がもっと調べたいと思ったことについて、次時で学校図書館にある資料で調べられるか確認する。ない場合は、町立図書館から借りたり、インターネットで調べたりできるようにする。	・児童がもっと調べたいと思ったことを図書館で調べる際に、まず百科事典でことがらについて調べること、次に図鑑や科学読み物を勧める。情報にいきつくように、個別の支援にあたる。	★成果物を学校図書館に掲示する。 

学校図書館活用のポイント

毎回、必要な本をまとめて取り出して準備をしてしまうと、子どもたちが自分で図書館に来た時に、自力で探すことができません。そこで、実態に応じて、できそうなときには、「どこに百科事典はあると思う？」と問いかけて、キーワード表やサインを見ながら自分たちで、本の在りかが分かるようにしていきます。



ワークシート、クイズを変更するときの視点
 ①児童が調べてみたいことがらを問題にします。
 ②11巻それぞれから問題を作り、なるべく手に取る巻が重ならないようにします。
 ③作ったら必ず子どもになったつもりで答える側を体験しておく、子どもがつまづきそうなところが把握できます。
 ※頭文字が「か」の事柄だけが、2冊にまたがって掲載されていますので、ふれるといいと思います。



百科事典は、調べたい事柄の概要を知ることができるので、どの学習でも使えます。子どもたちが「○○を調べたい」と言った時には、すぐに学校司書さんに聞く前に、「まず百科事典で調べてみよう！」と声をかけてみるといいと思います。

